



ほたるっ子

磐梯第一小学校
学校だより第15号
令和2年7月21日
文責：校長 酒井康雄

「同じ勉強をしていて、 なぜ差がつくのか？」

先週末、このような本を読みました。「できる子は、勉強時間外も学んでいる」ということ書いてありました。学び方にどんな違いがあるのでしょうか。また、本の帯には「『問いかけ』で、子どもは変わる」と書いてあります。どんな問いかけが大切なのでしょうか。

まず、学び方に3つのタイプがあります。お子さんの学び方は、どのタイプでしょうか。



【タイプ 1】授業を受けていても学んでいない人

例： 授業の話をはほとんど聞いていない子
席に座って一応授業を受けているが、黒板に書いていることをただ写経のように書き写しているだけの子

【タイプ 2】授業だけが学びの人 → 学ぶ場だけで学んでいる人は「限界」がある！

例： いわゆる授業を真面目に受けている子
「勉強と遊びの両立」のように、勉強を分けてバランスを考えている人

【タイプ 3】寝ているとき以外、日常すべてが学びの人 → 学ぶ絶対量が多い！

例： 机上での勉強以外の時も学ぼうとしている人
(テレビを見ている時、下校途中、遊んでいる時、親と話している時など)
机上での勉強以外の学びが多く、机上の学習に生かそうとする人

タイプ3のお子さんは、考える量が多く、考える力が高いです。

次に、考える力を伸ばすために、お子さんへどんな問いかけをしたらいいでしょうか。

- 「なぜだろう」・・・原因分析力を高めます。
- 「どう思う？」・・・自己表現力を高めます。
- 「どうしたらいい？」・・・問題解決力を高めます。
- 「要するに」・・・抽象化思考力を高めます。
- 「たとえば、どういうこと？」・・・具体化思考力を高めます。
- 「楽しむには？」・・・積極思考力を高めます。
- 「何のために？」・・・目的意識力を高めます。
- 「そもそも、どういうこと？」・・・原点回帰力を高めます。
- 「もし～どうする(どうなる)？」・・・仮説構築力を高めます。
- 「本当だろうか？」・・・問題意識力を高めます。

最大3つに絞って使ってみることがお勧めされています。問いかけによって物の見方を変えることができるようになるヒントが紹介されていました。